


# 出張調査報告書

令和2年1月7日

松伏町議会議長 川上 力 様

会 派 名 公明・新自民の会

代表者氏名 莊子敏一 

下記のとおり先進地視察を完了したので報告します。

記

1 期 日	令和元年11月5日から令和元年11月6日まで
2 視 察 地 及 び 日 時	(1) 北海道帯広市 11月5日
3 視 察 目 的	(1) 平成28年に発生した台風被害と復興の経過 平成28年の台風による農業被害と復興の経過 ( 帯広市 )
4 視 察 者 氏 名	莊子敏一 堀越利雄 川上 力 山崎隆一郎

## 行政視察日程

11月5日(火)

南越谷集合出発	05:45	東武鉄道 押上経由 運賃 5,400円
羽田空港 国内線ターミナル 着	07:07	
羽田空港 発	08:00	JAL573便 航空券・宿泊パック 169,200円
とちぎ帯広空港 着	09:35	
帯広市役所 着	13:30	
帯広市役所 発	15:30	
帯広市内 宿泊	16:00	リッチモンドホテル帯広駅前 人数:4人 朝食付 (1室1名様) 室数:4室 客室:【禁煙】シングルルーム×3 【喫煙】シングルルーム×1

11月6日(水)

ホテル チェックアウト	08:30	
とちぎ帯広空港 着	12:00	
とちぎ帯広空港 発	14:00	JAL572便
羽田空港 着	15:45	
羽田空港 発	16:10	京浜急行・都営地下鉄 東武鉄道急行 運賃 4,120円
新越谷駅 着	17:10	解散

## 視察項目

### (1) 平成28年に発生した台風被害

- ・十勝川水系の氾濫による帯広市の被害の概要。

台風10号によって帯広市内を流れる札内川と戸蔦別川では決壊し、約50ヘクタールが浸水し、床上浸水3件、床下浸水10件。

土木被害は、橋梁の崩落1件。道路損壊23件。道路冠水9か所。

農業被害は、農作物被害1272ha、草地被害200ha。

### (2) 台風被害の対応で、見えてきた課題。

- ・気象情報の周知がうまくいかなかった。

市役所庁舎内では来庁者に注意喚起を行った。ホームページ、ツイッター、フェイスブックで注意喚起を行ったが、市民に情報が届いていたのか不明。

- ・避難所開設情報・避難情報について

水害時には開設しないはずの総合体育館に避難所を開設した。地域防災マニュアルの理解ができていなかった。

避難所開設の情報は、広報車を市内に出して避難所開設情報・避難情報を伝えたが、音声聞き取れず、何を言っているのかわからなかった。どこの避難所が開設されていて、どこに避難したらよいのか混乱したという声が出た。

### (3) 改善された対策

- ・既存の避難所マニュアルに加え、「初期開設編」マニュアルを作成して職員の初動をわかりやすく整備した。
- ・避難所運営に必要な資機材を避難所ごとにまとめた「避難所運営セット」を準備した。
- ・災害廃棄物の処理を定めた処理計画を平成31年3月に策定した。

### (4) 平成28年の台風による農業被害。

- ・農業関係では、河川の氾濫、堤防の決壊によって農作物の流出、草地の被害など甚大な被害があった。また、玉ネギやジャガイモなどの農作物の収穫・出荷に影響が出たほか加工用馬鈴薯の収穫量の減少によりポテトチップス製品の販売中止が発生した。

### (5) 被災した農家への支援。

- ・施設や機械の復旧に緊急支援事業を実施。(国1/3、市1/3)
- ・流失した土の回復などを国の基準以上は市が対応。
- ・収益が大幅に減少した人に最高1000万円までを無利子で貸し付けた。  
24件で1億円を超える貸し付けを行った

## 視察報告 堀越利雄

11月5日・6日、公明・新自民の会の会派所属議員4人は北海道帯広市の「平成28年度に発生した台風被害と復興の経過及び農業被害と復興の経緯」について視察した。

帯広市役所内にて、議会事務局滝沢次長、久保農村振興課長をはじめ担当職員から説明を受けた。平成28年8月17日から1週間に連続して3つの台風が北海道に上陸。その後8月30日から31日にかけて大型台風10号が北海道に接近し、記憶的豪雨による甚大な被害が発生した。帯広市内も札内川と戸蔦別川の決壊や橋梁崩落、畑の冠水などの被害が起きている。

豪雨による冠水や河川の氾濫による農作物被害は、約1,272ha。草地被害は200ha、家畜被害は1,080頭。農業畜産業が盛んな帯広市にとって、これまで台風被害の少ない地方であったが、被害の甚大さとその後の復興までの経緯については、被害直後の被災映像と復旧完成した映像を何ヵ所も対比して説明していただき、明瞭に把握できた。

被災農業者向け経営体育成支援事業は、国が3分の1補助、市が3分の1補助で緊急支援。また、営農再開を加速するために、栽培環境整備支援や土づくり支援。市内の罹災認定を受けた農業者に対する無利子融資。道路や橋梁、護岸などの復旧工事などの復興過程なども早い対応に驚いた。

質疑応答で改めてわかったのは、帯広市は水田のない畑中心の農業基盤だということ。畑地の地下90cmに排水管が埋設されている。広大な土地と規模の大きさは農地被害の対応の速さにも表れていた。

## 視察報告 川上 力

今回の帯広市視察は、平成28年の台風災害について、その状況と今までの取り組みを確認する事だった。一週間で四つの台風に襲われた災害で、最も難しいことは、住民への周知についてとのこと。帯広市には防災無線が無いので、広報車を使った周知をしている。今後は、家庭ごと個別に行う方法も考えていくとのことだった。松伏町でも、防災無線がよく聞こえず想定以下の成果しかないと考えているので、対策が必要だと思った。また、避難所運営の初期に必要なグッズをまとめたものの用意や、防災担当者でなくても、避難所運営のスタートを問題なく出来るように、チェックリストがあるとのこと。参考のため、後日資料をもらうことにした。農地の被害については、営農をやめた方もいたものの、全体では被災前の収穫に戻っている。農地の排水設備が充実しており、大規模農業の強さを感じた。

北海道帯広市役所において、平成 28 年台風災害（川の防災）についての内容。

地球温暖化に伴い、台風の大型化や北限への到達化が近年著しい。

平成 28 年には、台風 7. 9. 10. 11 号と 4 個の台風が北海道を襲い、8 月の降水量は例年の 2. 7 倍の 378mm を記録。

台風 10 号においては、十勝川などの河川の氾濫が発生。

いままでに経験のない、被害に遭う。

水没した河川敷、運動公園、また冠水した道路、特に帯広市（十勝平野）にある農業牧畜地帯の水害被害が多く、甚大な被害をもたらした。

被害に際しての帯広市の経験をしての対策は大きく 3 つ

1：情報伝達

- ・各種マニュアルの整備（広報車による効果的な情報発信）
- ・市民への意識啓発（広報誌や防災出前講座での意識啓発）

2：避難所開設・運営

- ・避難所マニュアルの整備（特に初期開設編を整備）
- ・必要資材の整備（必要な資材を直ちに持ち出せるよう避難所運営セットを整備）

3：災害現場対応

- ・災害時に対応すべき業務と停止すべき業務の整理
- ・災害廃棄物処理の対応（帯広市災害廃棄処理計画の策定）

甚大な被害の経験のない、松伏町は災害地での経験をもとに想定した対策が必要と感じる

- ・防災無線の暴風時の音声聞き取れない問題。
- ・広報車での町内への告知。
- ・どのように町民に伝達をするのかの問題。
- ・広報誌や出前講座は当町でも告知をしている、それでいいのか。
- ・マップメールの受信者拡大を急げ
- ・避難所マニュアルとともに、災害時の資材の搬入の運営セットの確保
- ・災害廃棄物処理の対応はどのようになっているのか。

など、当町でこれから必ず必要になる事項が帯広市の視察を経て、大切な事柄を学べた事  
また、この事を実行に移すことが大切であると、強く感じました。